

蒲生干潟の地形調査⑧

■新たな通水部分を加え、3箇所で潟湖と七北田川が繋がった。

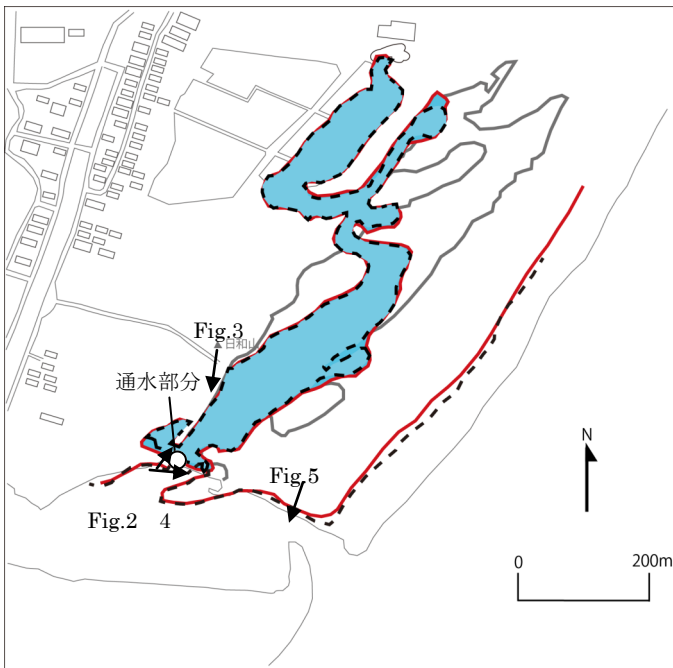


Fig.1 12月22日・1月8日の汀線・海岸線の簡易測量結果



Fig.2 新たに工事された導流堤通水部分



Fig.3 潟湖と川をつなぐ通水部分 日和山より撮影



Fig.4 潟湖へ流れ込む水



Fig.5 浸食された対岸(右岸)の砂州

調査日 2016年1月8日(金) 13:30~15:20

この日の満潮時刻は13:48であり満潮時間帯に調査を行った。Fig.1で1月の汀線および海岸線を赤の実線、12月のそれを黒の破線で示した。12月の調査と今回の調査は共に満潮時であり潮位は140cmと同じ条件であったが、潟湖の水位は今回の方が高く面積も拡大していた。導流堤付近では新たに工事された通水部分(Fig.2)を含め3箇所の通水部分から潟湖へ川から水が流れ込んでいた(Fig.3,4)。3箇所の通水部分ともかなりの流速であった。

河口付近では対岸(右岸)の砂州が12月と比べかなり浸食されていることが確認された(Fig.5)。

(中田 晋)